

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171300680		
法人名	社会福祉法人 慈恵会		
事業所名	さわやかグループホーム七宗		
所在地	岐阜県加茂郡七宗町630-1		
自己評価作成日	令和2年12月8日	評価結果市町村受理日	令和3年4月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2171300680-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和3年3月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営規定に掲げているように、利用者様自身にやって頂く事、選んで頂く事を大切にしながら日々の介護を行っている。常に新しい事を取り入れるよう職員が考え、利用者様と一緒に出来るようにしている。日々、笑顔で楽しく利用者様が過ごして頂けるよう工夫をしながら、笑いの絶えない事業所を目指している。
コロナ感染予防の為、面会が出来ない中、御家族に利用者様の日々の自然な表情など細かく伝えられるよう写真を活用しながら伝えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所のすぐ近くを飛騨川が流れ、裏には木々が生い茂る自然豊かな環境の中で、各地で福祉事業を展開している法人の組織力を活用しながら、日々、利用者を笑顔にするための支援に取り組んでいる。新型コロナ感染拡大により、日々の暮らし方に様々な制限はあるが、職員は、理念である「自分でできること、自分で選ぶことを大切にする」を意識し、知恵と工夫で利用者の身体機能維持と笑顔が途切れない支援に取り組んでいる。また、管理者は、職員に資格取得や研修参加を奨励し、介護のプロとしての資質向上を図り、より良い利用者サービスの提供に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分で出来る事、自分で選ぶことを大切にす る」という運営理念を事務所に掲示し、職員一 同共有している。利用者様個人個人出来る事 の範囲を見極めながら日常の管理、着替えの 服など選んで頂いている	運営理念を事務所に掲げ、常に利用者の自立を 妨げない支援、手をかけすぎない支援を基本に、 日々、取り組んでいる。職員は、利用者が住み慣 れた地域で、穏やかに暮らせるよう支え、笑顔を引 き出すケアを心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けら れるよう、事業所自体が地域の一員として日 常的に交流している	コロナ感染予防の為、R2.2より地域への外出は 行っていないが、職員が毎日近くのお店に買い 出しに出かけている。そこで地域との繋がりを 継続し、外出が可能となった時に利用者様の 繋がりも保てているよう心掛けている。	今までは、地域の作品展を見に行ったり、買い物 に出掛けたりしていたが、感染予防の為、自粛して いる。地域のボランティア訪問や行事も中止となっ ている。コロナ終息後には、地域との交流がスム ーズに再開できるよう、職員が近くのお店に買い 出しに行つて情報交換しながら関係維持に努めて いる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知 症の人の理解や支援の方法を、地域の人々 に向けて活かしている	地域の店等に職員が買い出しに出掛け、地域 の方に認知症の理解をしていただけるよう努め ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービス 向上に活かしている	運営委員へ2ヶ月に1度利用者様の動静、現在 の状況等詳しく書面にて報告行つてる。その中 で意見などあった時は日々の介護に活かして いけるようにしている。	昨年の2月までは、開催できていたが、コロナ禍の 今は、運営推進委員会を中止し、書面にて報告を 行っている。利用者の近況、事業所の活動やコロ ナ感染対策について報告し、会議構成メンバーか ら意見を聞きながら、運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事 業所の実情やケアサービスの取り組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように取り 組んでいる	事故や入退院、入退居があった場合は報告を 行っている。毎月のホーム便りを届ける際に、 近況報告している。	行政主催の会議出席や相談員の訪問を中止して いる。家族向けのホーム便りを行政に届ける際 に、担当者意見交換し、連携を図っている。新型 コロナ関連情報や介護保険制度について情報は メールで配信され、運営に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型 サービス指定基準及び指定地域密着型介護 予防サービス指定基準における禁止の対象 となる具体的な行為」を正しく理解しており、 玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケア に取り組んでいる	身体拘束にかかわるマニュアルがある。常に解 錠し自由に入出入りが出来るようにしている。外 に出られても、直ぐに呼び止めることはせず、 様子を伺い必要に応じて言葉掛けを行って いる。身体拘束について職員同士で3カ月に1度 を基準に勉強会を行っている。	3ヶ月毎に、身体拘束等廃止検討会議を行って いる。エリア長・介護長・ケアマネジャー・本部相談 員・相談員等、多職種の関係者が参加して開催 している。職員会議の中でも、拘束検討会議の 内容について話し合い、拘束に繋がる不適切ケア についても常に意識し、拘束ゼロに取り組んで いる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法に ついて学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事 業所内での虐待が見過ごされることがないよ う注意を払い、防止に努めている	法人でマニュアルを作成している。実践者研修 受講者は虐待について学び、研修を受けた者 が他職員に伝達研修する時間を設けている。 虐待と見受けられる行為があれば管理者に報 告するよう職員に指導し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、活用しなければならない利用者様はみえない。職員は研修で学んでおり、研修を受けた者が他職員に伝達研修をすることになっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に見学に来て頂き施設内の案内や活動内容等説明したり入居時に契約書を見ながら説明を行い、疑問な点があれば理解出来るよう説明を行っている。改定の際は、面会時や家族会の時に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に苦情受付の案内を行ったり、ホーム内にも掲示し、面会時に要望等がないか伺っている。また、家族会や運営推進会議の際にも伺ったり、年1回の家族アンケートを行い意見を伺っている。	感染防止の為、家族との面会はガラス越しで行ったり、電話やメール、手紙等で意見や要望を聞いている。日頃の暮らしぶりが分かる写真入りの「空色通信」を送付したり、3月と9月(サンキュー)を「ありがとう月間」とし、職員同士や利用者から職員へ、普段なかなか伝えられない感謝の気持ちをカードに書いてもらい、それを掲示している。	毎月、日頃の様子や行事の様子がわかるよう、利用者の写真を載せた通信を発送している。コロナ禍の今、面会も難しい状況であり、できれば、担当職員から、利用者個々の日頃の様子や、微笑ましいエピソードなどを手書きで一筆添えるなどの工夫で、家族との信頼関係強化に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、職員会議を開催し、意見・提案があれば話し合いを行ったり、それ以外でも意見等を伺った時には話し合う時間を設けている。	毎月の職員会議は、事前に議題を提示し職員の意見や要望を収集している。より効率よく積極的に話し合いが出来る会議とし、意見を運営に活かしている。また、職員には資格取得や研修受講を推奨し、そのための勤務体制等を配慮しながら、資質向上につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度終わりの自己評価も参考にし、職員の勤務状況を把握している。また、本人が希望する試験、研修等があれば、参加できるよう勤務を調整し、家庭の事情を考慮し勤務を組み、無理のないように勤務出来るよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数に応じた法人内の研修に参加している。また、日頃の業務の中で職員がわからない事や不安な事等を1つ1つ自分で考えられるようアドバイスをしながら職員1人1人を成長させるよう努力している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域内には同業者がいない為、法人内のグループホーム7ヶ所で2ヶ月に1回、情報を共有しサービスの提供に関する意見交換を行っている。他グループホームでの取り組みなどが活用できるようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前や入居時、利用者様や家族様、担当ケアマネジャーから直接聞き取りを行い、入居してからは本人様と関わりを多く持ちながら関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	認知症の症状を伺い、どんなことで困っているのかまた、どのような要望や不安があるのか直接聞き取りを行って施設内を見学して頂いたりし安心して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話をよく伺い、利用者様、御家族の立場に立って、何が今一番必要な状況であるか見極め、助言、対応している。サービスの利用にあたっては上司に報告、相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日のコミュニケーションの中で、お互いの生活習慣や行事を共有しながら関係を築き、利用者様の特技や趣味等出来る環境を作り、職員が利用者様に教えてもらいながら一緒にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月近況を報告している。本人様の状態を細かく報告しながら緊急時や不安な訴えがある時等御家族と相談し対応している。御家族と定期的に手紙を出したり、御家族から頂いたりする機会を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染防止の為馴染みの人や場所等に出かける事は現在行えていないが、地域の広報誌等を活用している。また、日頃の会話の中でも地域の話題を多く取り入れるように心がけている。	感染防止の為、馴染みの場所に行くことや、地域との交流を自粛している。家族とは、手紙や電話等で関係の継続に努めている。また、市の広報誌で馴染みの場所や地域の人が記載されている記事を話題にしながら、終息後の楽しみにつなげている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃の利用者様の表情など細かく観察しながら、トラブルが起きないように席を調整している。お互いの顔が見えるような席の配置に常に会話が出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院、退居後も、必要に応じて利用者様の情報を交換している。また、退居後も地域に出掛け御家族に出会った時等積極的に声をかけ話を伺ったりしながら関係性を大切に継続できるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日のコミュニケーションの中で本人様の思いや希望を記録して職員全員が把握出来るようにしている。また、把握困難な方は御家族や身近な方から情報を集めたり、日頃の様子を観察しながら本人様の思いを職員同士話し合いながら見つけるように努めている。	職員は、入居時の基本情報をもとに、その人の生活習慣やこだわり、思いや意向を把握している。新たな気づきは、メモに残し、計画書に添付している。意思疎通が困難な場合は、家族からの情報や本人の表情、仕草等、ゆっくりと時間をかけて思いを汲み取り、本人本位のケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族や知人からも情報を収集するよう努めている。また、利用者様との毎日の会話の中で馴染みの物等1つでも多く思い出して話して頂けるよう会話の流れを工夫するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	気付いた事は本人様の記録に残し、状態の変化がみられる方は常に申し送りを行い、職員全員が把握できるよう努めている。3ヶ月毎にケアチェックを行い把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御家族に話を伺ったり、介護計画作成時本人様の意向、御家族の意向を取り入れている。各職員が日頃から細かくアセスメントを行い職員同士すぐ共有できるようにし多く意見も取り入れられるようにしている。意見を反映させながらモニタリングを行い介護計画に繋げている。	介護計画作成時には、できるだけ利用者と家族を交えてサービス担当者会議を開催している。担当職員の意見、利用者・家族の意向や要望をまとめ、利用者が、自分でできる喜び、自分で選べる喜びを感じられる介護計画作りを行っている。毎月、担当者がモニタリングを行い、状態に応じて見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員それぞれが、気付いた事や工夫、その日の状況も記録するようにしている。職員同士すぐ共有できるようにし多く意見も取り入れられるようにしている。意見を反映介護計画、実践に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族に代わって、受診の付き添いや利用者様の個人的な外出、買い物等の送迎や付き添いを行っている。日頃から利用者様の言動を観察し生活に不自由な場合や使いにくい箇所など職員同士工夫し環境を整えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会福祉協議会や地域包括支援センターが企画する脳トレ等を提供してもらいホーム内で行えるようにしている。町の広報誌等を常に目を通し、活用できそうな資源があれば積極的に活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は入居前にかかっていた地元のかかりつけ医がほとんどで、御家族の希望によって定期的に往診していただいている利用者様もみえる。また、緊急時に往診をお願いしたり、電話にて対応を伺ったりしている。定期的に訪問歯科にかかってみえる方もみえる。	利用者のほとんどが、入居前のかかりつけ医を選択し、定期的に往診を受けている利用者もある。受診は家族の同行を基本とし、家族の都合が付かない時や、緊急時には職員が同行している。かかりつけ医や関係機関と情報を共有し、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームには看護師がいない為、隣接するデイサービスセンターの看護師に相談したり簡単な処置を行っていただいている。また、エリア内の特養の看護師に相談することもある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力病院である木沢記念病院の地域連携室の職員と連絡をとり、情報を交換している。また、他の病院でも担当者と連絡をとり早期退院に向けて取り組んでいる。必要に応じて電話連絡を増やしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の状態変化には、家族様、主治医との連絡を密にとり、今後の対応の方針、緊急時の対応を相談。御家族と話し合い、利用者様、御家族の意思を確認しそれを第一に支援している。また、重度化した場合にも、意向を重視し、主治医の診断に従いホームで出来る支援をしている。	契約時に、看取りは行わない方針であることを家族・利用者に説明し、同意を得ている。状態の変化に応じて、医師を含めて、家族、関係者で話し合い、方針を決定し共有している。事業所で出来る範囲の支援を行いながら、医療機関や適切な移転先についても、家族が安心できるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回、隣接するデイサービスセンターとの合同防災訓練を行っている。常勤、パート職員共に2年に1回、救急救命講習に参加し訓練を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、昼夜の防災訓練を隣接するデイサービスセンターと行っている。法人一斉メールにて全職員が把握できる。防災訓練には、運営推進委員の方、役場職員、区長以外に、近隣の方にも実施の案内をし参加を呼び掛けている。	防災訓練は、隣接デイサービスセンターと合同で実施している。地域には案内状を出して参加を呼びかけ、運営推進会議メンバーの協力も得ている。コロナ禍の今は、防災訓練は中止となり、マニュアルやビデオで確認しながら防災意識を高めている。備蓄品や防災ヘルメット、停電時の必要備品等の確保など、法人の指示体制がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄の言葉掛けは傍で小声で行っている。失敗されても何気なくフォローするよう心掛けている。居室で自由に過ごす時間も大切にしている。転倒のリスクのある方も、居室内の配置を工夫しながら安全に自己にて活動して頂けるようにしている。	利用者の呼び名や便りに載せる写真等は、家族の同意を得るなど、個人情報の取り扱いには細心の注意を払っている。また、支援の際には、利用者の自主性や自己決定を尊重し、自信に繋げている。入浴や排泄時には、特に羞恥心に配慮し、誇りを損ねないよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	運営理念を念頭に、日常生活の中で自己決定出来るよう、食事のメニューや服など希望が表せるような言葉掛けを心掛けている。思いや希望が表しやすいよう日頃から何でも話せるような信頼関係作りを努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の心身の状況を把握し、本人の意思を確認し、昼寝、入浴、余暇活動等の支援を行っている。また、天気の良い日等外の木陰でゆっくりと自由に安全に過ごせるよう環境を整えた。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に応じて服や化粧品等購入している。洗面台の鏡が高く見えにくい利用者様には壁掛けの鏡を提供し自己にて身だしなみを調えられるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	エリアの栄養士が作成した献立に利用者様の好みや希望、旬の食材、郷土料理などを取り入れたり、その場で作り、温かい食事を自分で取り分けて食べる事の出来るような献立も取り入れている。また、個人の能力に合わせ、調理や片付けを行っている。	食事の献立はエリアの栄養士が作成している。地元で食材を購入し、調理担当の職員が家庭的な味付けで毎日、出来立ての食事を提供している。対面式キッチンで、利用者もできる準備作業や食事作りに関わりながら、食べる事が楽しみとなるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の摂取量を記録し、量を把握、個々に合わせ食事量や形状を変えている。希望される利用者様はペットボトルにお茶を毎日入れお渡ししている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、個々に応じた支援をしている。義歯の方は週に1回義歯洗浄剤に浸けている。訪問歯科による検診とケアを定期的に受けている方もいる。		

岐阜県 さわやかグループホーム七宗

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間を出勤職員が共有し、個別に排泄対応している。失禁の量に応じ下着やパッドの種類を変えて対応している。見守りを基本とし、必要以上に介助を行わないよう心掛けている。パット汚染などの把握をし、はくパンツを布パンツに交換するなどその都度検討しながら行っている。	昼夜ともトイレでの排泄を支援している。職員は、排泄用品取り扱い業者による勉強会で、利用者の状態に合わせた用品の選択方法を学びながら、こまめな声かけと誘導で排泄の自立につなげている。また、排泄用品の適切な選択や組み合わせで、本人負担費用の軽減につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体を動かす機会を増やす為、散歩やレクリエーション等で個々に応じ行っている。繊維の多い食品や乳製品を取り入れたりしている。排便間隔を職員が把握出来るように記入している。排便がみられない方は、医師に相談し、下剤で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望を伺い入浴を行っている。菖蒲や柚子、みかんの皮等を入れ入浴を楽しめるようにしている。臥床時間や体調をふまえ入浴順を決め、安全にゆっくりと入浴できるよう心掛けている。	入浴は週3回を基本とし、利用者の体調や気分に合わせ、曜日や順番等にも柔軟に対応している。季節に合わせて、柚子やみかん、菖蒲などを浮かべて季節感を感じられるよう工夫している。個浴槽での入浴が難しい重度の利用者には、シャワー浴で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間を問わず自由に臥床していただいている。体調不良時や下肢の浮腫の状態などを見ながら臥床の時間を設けている利用者様もいる。冬場は加湿器を設置し、室内が乾燥しないように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のファイルに薬剤情報提供書を綴り、変更があった場合は申し送りをし、直ぐに新しい情報が得られるようにしている。変化がある場合、記録と申し送るよう指示してある。服薬のマニュアルを作成し、確実に服薬出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日頃から利用者様との会話の中で新たな発見が出来るように努め得た情報をもとに支援が出来るよう努めている。個々で興味を持たれる事を探していきその都度提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染防止の為外出、買い物等は行えていないが、希望に応じ戸外での活動は多く取り入れている。花の手入れ、散歩、草取り、戸外で会話をしながらおやつを食べるなど個々で利用者様が楽しめるようにしている。	新型コロナ感染防止の為、様々な行事や買い物などの外出が中止となっている。感染対策をした上で、事業所周辺を散歩したり、庭の花の水やり、草取りなど外気に触れられる機会を多くし、気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は少額を事務所で管理しており、外出行事の際には個々のお金を持参し、欲しい物を購入していただき、自分で支払いが出来るよう支援している。日頃、個人のお菓子を購入する場合も同じように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも利用できるようにしている。希望される方には職員が傍で支援している。また、暑中見舞い、年賀状を家族様や友人に送ったり、御家族からの手紙や送られてきた物のお礼の手紙を書くようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室以外の場所(浴室、トイレ)の湿温度管理にも気を配り、不快にならないよう努めている。同じ形の戸ばかりの為、浴室・トイレ・居室には必要に応じて張り紙をしている。四季に応じた花や飾りつけを行い、季節感を出すように心掛けている。毎週月曜日に室温度のチェックを行っている。	共用空間は広く、開放感がある。利用者は、窓越しに梅や桜の花を眺めながら、季節を感じることができる。雛壇が飾られ、壁面には利用者の写真、大きな本棚には、たくさんの本が並び、自由に読むことができる。適切な空調管理と自然換気を行いながら、感染防止対策に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂以外にソファ、椅子、テーブルを置き、いつでもくつろげるようにしている。居間には新聞や本等、余暇の道具があり、いつでも使用出来るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、使い慣れた物や出来るだけ今まで本人の部屋に飾ってあった物、家族の写真等大切にしていた物を持ってきていただくようお願いしている。また、居室で自由に過ごせるよう必要に応じ椅子や机を配置したり、雑誌等居室で自由に読んで頂けるようにしている。	居室にはクローゼット・洗面台・介護用ベッドが設置されている。窓は掃き出しタイプであり、自由に庭に出ることができる。使い慣れた整理タンス・衣装ケース・椅子・寝具等を持ち込み、使いやすく配置している。家族の写真や手作り作品を飾り、自分らしく居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はバリアフリーになっている。入口の戸が同じ形の為、トイレや浴室には大きな字の張り紙をしている。居間に本や歌詞カード、色鉛筆等余暇の道具を置き、いつでも使用できるようになっている。日付が分かるよう大きな日めくりを掲げている。		